

第7章 環境立県くまもと型未来教育

第1節 未来を支える人づくり

1 持続可能な未来をつくる人づくり

現状・課題

水俣病を経験した本県は、水俣病の教訓を後世に伝えるという大きな役割を担っており、幼児から大人まで、様々な環境問題の解決のために自ら行動できるよう教育・学習の場を充実させる必要があります。また、環境に関する情報を広く県民に周知し、積極的な参加を促進していく必要があります。

環境への負荷を抑制し、快適な環境を次世代に引き継ぐため、主体的に環境保全に取り組む人材や環境教育の指導者になりえる人材の更なる育成・確保が必要です。

取組み

- 環境教育の質の向上を図るため、地球温暖化防止活動推進員やエコロジスト・リーダー、熊本県森林インストラクター等の育成・確保及び研修を行いました。

【令和3年度（2021年度）実績】

- 地球温暖化防止活動推進員 63名（新規）
- エコロジスト・リーダー 56名（新規）
- 熊本県森林インストラクター 263名（累計）



（令和3年度エコロジスト・リーダー研修）

2 家庭、地域社会、職場などにおける環境教育・学習の推進

現状・課題

環境保全に向けた自主的な取組みが継続して行われるように、環境保全について学ぶ場や機会を拡充する必要があります。

取組み

- 熊本県では、環境情報・学習の拠点として環境センターを設置しています。エコ・ステージでの「地球温暖化問題」等の常設展示の他、出前講座や体験学習など、様々な取組みを行いました。

《令和3年度の主な取組み》

【環境学習イベント】

制作体験や自然観察会などのイベントを計13回実施しました（グリーンカーテンの設置、干潟観察会、磯の生きもの観察会、エコキャンドルづくり等）。



（令和3年度 磯のいきもの観察会）

【出前講座】

小・中学校、公民館、その他の団体の要請に応じて環境センターの環境指導員や環境センターに登録された指導者等を県内各地に派遣し、環境学習を実施しました。

また、地域の環境問題を支援するリーダー育成のための講座を開催しました。

- ・動く環境教室 40回 参加者1,878人
- ・環境教育指導者派遣 18回 参加者777人
- ・エコロジスト・リーダー派遣 12回 参加者335人
- ・エコロジスト・リーダー養成講座 参加者19人

【環境絵画コンクール】

県内の小学生を対象に、環境に関する絵画を募集し、審査入賞者の選定を行いました。

- ・応募学校数 161校
- ・作品数 2,296点
- ・入賞作品数 特選12点、入選24点



(令和3年度 動く環境教室)



(令和3年度環境絵画コンクール展)

3 学校などにおける環境教育の推進

現状・課題

県教育委員会では、環境保全活動や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することを目的として、「教科等における取組」、「学校版環境ISO」及び「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の3つを柱に環境教育を進めています。

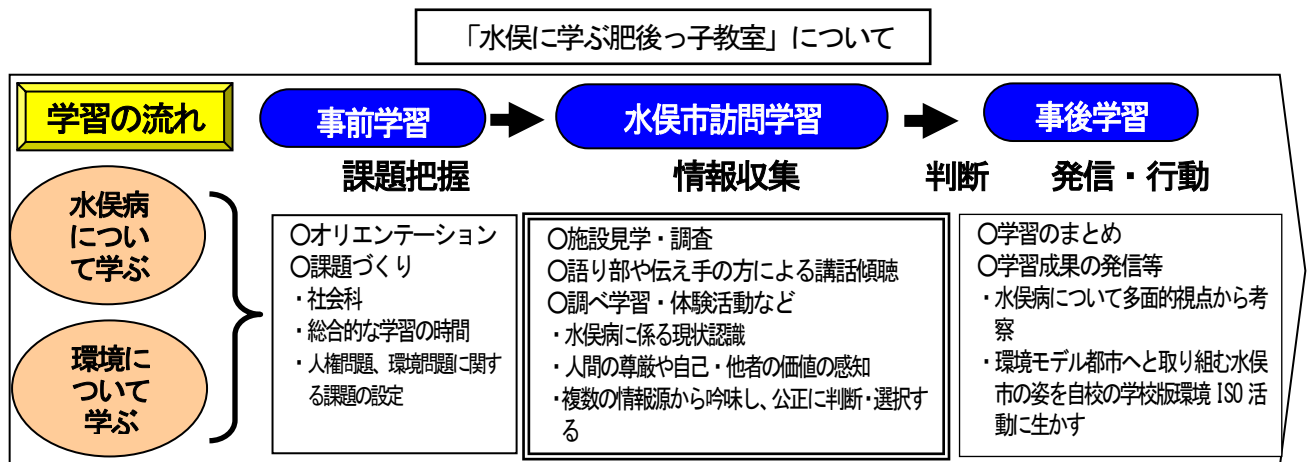
学校教育では、環境教育をとおして、環境保全やよりよい環境の創造に主体的に関与できる能力を育成することや、生活環境や地球環境を構成する一員として、環境に対する人間の責任や役割を理解し、環境に積極的に働きかける態度を育成することが重要です。

取組み

- ・ 学校における環境教育は、各教科、特別の教科 道徳及び総合的な学習の時間等において、学校や地域の実態及び自然環境等を活かして、米作りやホタルの飼育、干潟の清掃活動など、工夫を凝らした活動が展開されています。また、第6学年の理科を学習する際に、第5学年の社会科で学んだ森林の役割とつなげることで、水や空気の循環に関する理解を深めるなど、教科横断的な視点から環境に関する学習を推進しています。さらに、県内全ての小中学校及び義務教育学校が環境教育全体計画、年間指導計画を作成し、「農業体験」「リサイクル活動」などを位置付け、計画的、系統的、継続的な指導が行われています。
- ・ 「学校版環境ISO」では、児童生徒が自ら考え行動することで環境にやさしい心情を育むとともに、持続可能な社会の創り手に向けて環境保全活動や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することを目的に取り組んでいます。平成19年度（2007年度）から、県内

全ての小中学校及び義務教育学校が参加し、数値目標を掲げた活動や家庭・地域と連携した活動などが展開されています。

- 「水俣に学ぶ肥後っ子教室」では、「環境立県くまもと」の担い手である熊本の児童に、水俣病についての正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むとともに、環境への関心を高め、環境保全や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することを目的としています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から訪問学習を行わず、語り部講話及び環境学習を双方向型のオンライン学習に替えて実施しました。



第2節 豊かなくまもとを守り育てる地域づくり

現状・課題

ゼロカーボン社会・くまもと、環境立県くまもとの実現に向けては、県民一人ひとりが、環境問題を自分自身の問題と捉え、家庭や事業所等における環境配慮型ライフスタイルを県民運動として実践・定着させていく必要があります。

より多くの県民が環境保全行動に取り組むためには、単独の取組みだけではなく、家庭や事業者等で、相互に連携・共同しながら継続的に実践できるよう促していく必要があります。

優れた環境保全行動を表彰するとともに、それを幅広く周知、啓発することで、県民の自主的な環境保全行動の一層の広がりを促進していく必要があります。

取組み

- 6月を「熊本県環境月間」、6月第1日曜日を「熊本県民環境美化行動の日」と定め、様々な取組みを行うことで、県民一人ひとりの環境問題への理解促進、日々の暮らしの中での環境保全行動を促進しています。

【令和3年度（2021年度）実績】

- 令和3年度の環境月間における環境保全活動実施回数 78回

- 県下一斉清掃活動として「くまもと・みんなの川と海づくりデー」を実施しました。

【令和3年度（2021年度）実績】

- 参加者数 約9,800人（コロナ禍によりメイン会場での実施は中止）

- 豊かな環境の保全・創造に顕著な功績があった団体・個人に対し、「くまもと環境賞」を表彰しました。

【令和3年度（2021年度）実績】

- 受賞者数 10団体・個人



第30回くまもと環境賞授賞式